

アーカイブズ学専攻（博士後期課程）

1. 教育研究上の目的

アーカイブズ学専攻は、記録・アーカイブズと人間活動の関係を幅広く探究し、それら資料の保存・利用等についての専門的なプログラムを設計・運用するとともに、自立した調査・研究を通して関連する諸問題を科学的かつ創造的に解決に導くことのできる卓越した研究教育の能力と学識を身につけた人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

アーカイブズ学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満した上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（アーカイブズ学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 記録・アーカイブズに関する作成・整理、評価選別・収集、保存、利用、普及についての専門的な知識及び技能を身につけている。
2. 高等教育機関又はアーカイブズ機関等において研究・教育指導ができ、アーカイブズ学の発展に貢献できる。

（思考・判断・表現）

3. 記録・アーカイブズに関する諸問題に専門的に取り組み、具体的な調査研究を通して実証的に解決に導くことができる。
4. 資料の完全性を保護して証拠性を確保すること等を定めた国際アーカイブズ会議（International Council on Archives: ICA）「アーキビストの倫理綱領」を踏まえて、研究活動、及び研究・教育指導を行うことができる。

（関心・意欲・態度）

5. 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての専門的なプログラムを設計し、運用することを目指すため、先行研究を適切に踏まえ、実証的に研究を進めるだけでなく、研究・実践の卓越性を確保し証明しつつ、それを研究・教育指導に反映する意欲を持っている。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

アーカイブズ学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

(教育内容)

1. アーカイブズ学の専門的知識を高めるため、「アーカイブズ学概論」「アーカイブズ学理論研究」「記録アーカイブズ研究」「アーカイブズ管理研究」「デジタルアーカイブズ」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)
2. より広い情報資源論という領域において、アーカイブズ専門職が図書館及び博物館の専門職と協力・連携する考え方と方策を探るため、「情報資源論」を配置する。(知識・技能)
3. アーカイブズ学に関する専門的研究能力を養成するとともに、専門職(アーキビスト)又は研究者・教育者として、様々な現実的課題に科学的・実践的に対応する問題解決能力及び研究教育指導力を養成するため、「アーカイブズ学演習」「アーカイブズ管理演習」「デジタルアーカイブズ演習」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)
4. 博士論文の執筆・提出及びその口述試験に臨むために必要な知識・方法を修得できるように、「博士論文指導」を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身の課題設定及び研究作業を基として、プレゼンテーション能力及び論文作成能力を向上させるため、研究発表、質疑応答、研究討議を行う。また司会役を務めさせ、研究教育上の配慮ができるよう指導する。
3. 学生が提出した研究計画書に基づいて組織された博士論文指導委員会は、論文の進捗について報告を受け、指導を行う。
4. 指導教授は定期的に個別面談を行い、執筆計画、論文構成、論述指導等を行う。また論文執筆に必要となる幅広い専門的学識が獲得できるように関連課題・原理についてディスカッション等を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目においては、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、他者の議論を汲み取り、適切な方向に伸ばしていく能力、及び議論全体の中で妥当な結論に導く能力を測る。
3. 演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、科学的かつ実証的に解決する能力を測る。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

アーカイブズ学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. デジタル形式か紙文書かを問わず、記録・アーカイブズに関する評価選別・収集、保存、利用、普及に関する専門的知識を有している。

（思考・判断・表現）

2. 記録・アーカイブズに関する諸問題に専門的に取り組み、具体的な調査研究を通して実証的に解決に導くことを目指すため、資料の完全性を保護して証拠性を確保すること等を定めた国際アーカイブズ会議（International Council on Archives: I C A）「アーキビストの倫理綱領」を踏まえて、研究活動を行うことができる。

（関心・意欲・態度）

3. 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての専門的なプログラムを設計し、運用することを目指すため、これに関する学術的及び社会的な使命を自覚して、研究・実践に取り組む意欲がある。

以 上